ウィンクツー「西口スタジオ」

ノンリニア、MA室を増設

スモーク導入　3D編集も披露

ウインクツー（EX・アンド・アソシエイト　スタジオ事業本部、本社＝東京都世田谷区）は、渋谷区に開設した「西口スタジオ」の第3期工事を終了した。

今回はアップルの「ファイナルカットプロ」（FCP）と「スモーク for Mac」を導入したノンリニア編集室「オンライン5」とMA室「MA－4」各1室、オフライン（PD）編集室2室を追加オープン。同所はこれにより、PD5室とノンリニア3室、リニア1室、MA2室（1室は5・1ch）を設置したことになる。3日には顧客を招いた内覧会を開催した。

同スタジオは2010年7月に開設。各室はセンターサーバー「Xsan」（84テラ）にファイバーチャネルで接続し、テレストリーム社製入出力兼キャプチャー装置「パイプライン」による素材取り込みから仕上げまでをファイルベースで行う。コーデックはプロレゾ422を中心に、顧客の環境に合わせDVCPROHDなども活用する。

加賀谷文夫スタジオ事業本部長は「従来、FCPを中心にシステムを構築してきたが、オンライン5には同じMacベースで運用できるスモーク for Macを導入。高度な合成やペイント、カラーコレクション、3D編集に対応できることで、作品の内容や顧客の幅を広げ他と差異化する」と説明する。

MA－4は、国内3号機となるフェアライト社製CC－1ベースの「エボリューション」ミキシングシステムを導入した。

QuickTime、OMF、MXFなどのデータを読み込み、ワークビデオをDAWから再生可能。高負荷映像はピクシスHDシステムも使用できる。ウェーブスダイヤモンドなどプラグインを豊富にそろえ表現力を増したほか、ラウドネスレベル監視も行える。

内覧会では、既設の「オンライン3」で3D（立体視）デモ映像も紹介した。パナソニックの2眼式一体型カメラで撮影し、FCPと3D用プラグイン「ステレオ3Dツールボックス2・0」「シネフォームネオ3D」で編集する手頃なワークフローを提案した。

同室はFCP2式を設置し、編集とレンダリングなどの並行作業を行える。テロップは「Deko100OHD」で作成し、TARGAファイルをFCPで読み込む。

加賀谷氏は今後の展開を、「CMやVP制作が可能な銀座スタジオや、いち早くファイルベース化した渋谷坂スタジオと連携し相乗効果を生みながら、多様な番組やVPを制作したい」と話す。設計および施工はソナ、システム機器は共信コミュニケーションズが担当した。

銀座スタジオも同時に、「オートデスクスモーク」をリナックスベースの2011版にアップグレードし、パフォーマンスを向上している。

【所在地】▽東京都渋谷区神山町16－2bitCube渋谷ビル1F／3F▽☎03－5860－5630

「スモーク for Mac」を導入した「オンライン5」編集室

「エボリューション」ミキシングシステムを導入した「MA-4」

【主な設備】

◆オンライン4（リニア）▽スイッチャー＝MVS－8000GSF▽DME＝MVE－9000▽キャラクタージェネレーター＝Deko1000HD▽ディスクレコーダー＝クリップストア1▽マスターモニター＝HTM－199OR／HLM－1704WR

◆オンライン5（ノンリニア）▽編集システム＝ファイナルカットプロV7・0／スモーク for Mac（KONA3×2）▽キャラクタージェネレーター＝Deko1000HD▽リガライザー＝MHPi▽マスターモニター＝HTM－199OR／HLM－1704WR

◆MA－4▽ミキサー＝エボリューション▽DAW＝CC－1／プロツールスHD1▽モニタースピーカー＝1038CF▽ビデオプロジェクター＝TH－D7000W▽ビデオモニター＝TH－50VT2▽マイプリ＝ISA430▽コンプレッサー・リミッター＝3609▽ラウドネスレベルメーター＝LLM－D1012C▽ワークビデオ＝ピクシスHD